

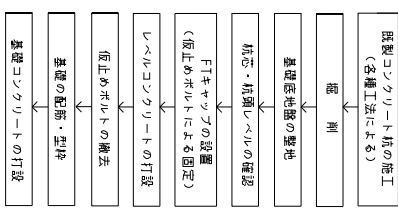
■構法概要

1. 本構法は、地震時の杭基礎の損傷低減を目的とした杭頭接合方法であり、既製コンクリート杭に用いる。
2. 杭頭を基礎（パイルキャップ）～50～150mmの範囲で埋め込み、埋め込み部分において杭外周部とパイルキャップの界面にテーパ状のクリアランスを設ける。
3. 杭頭接合方法は、地震時に杭頭に引抜き力が作用しない箇所に適用する標準タイプと、引抜き力が作用する箇所にも適用できる引抜き対応タイプの2タイプがある。

■使用材料（適用範囲）

- ・杭：各種の既製コンクリート杭（PHC杭、SCG杭、PRC杭、RCG杭等）
- ・杭径：300mm～1200mm
- ・コンクリート（基礎（パイルキャップ）部）：普通コンクリート 設計基準強度：18～60 N/mm²
（法第37条第一号もしくは第二号に該当するコンクリート）

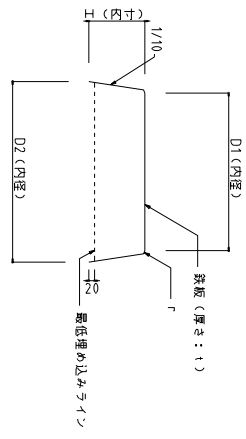
■施工手順



★留意事項

- ・施工開始前に施工計画書を作成し、工事監督者の承認を得ること。
- ・FT.Pile構法の施工は、FTキャップ設置前にパイルメーカーによる施工説明・指導を受けた後、実施する。
- ・FTの刻印があるFTキャップ（テーパ型枠）を使用すること。
- ・FTキャップの受入時にはFTPの刻印と変形や損傷の有無を確認すること。
- ・既製コンクリート杭の設置に先立ち、杭頭の直下のボルト孔に泥が入らないように養生を行う。
- ・杭頭レベルの調整が品質管理許容差を超えた場合には、工事監督者・設計者と協議のこと。
- ・FTキャップを設置する際は、杭周囲の砕石等のレベルが周辺よりも高くなっていることを確認する。
- ・FTキャップ設置後は木型等でFTキャップを覆行し、損傷との間に小石・砕石により、深き・隙間が生じていないか確認する。
- ・レベルコンクリート打設前にFTキャップの最低埋め込みラインが隠れるまで砕石または現地発生土に埋め込まれているか目視確認する。
- ・仮止めボルトは、レベルコンクリート硬化後に撤去する。
- ・FTキャップの上には原則として基礎配筋用のスベーク等を置かないこと。
- ・施工完了後、施工結果を「施工チェックシート」に記録し、工事監督者に提出すること。

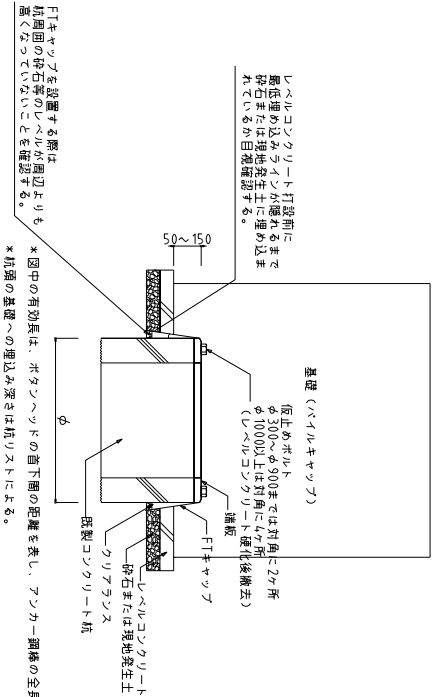
■FTキャップ（テーパ型枠）仕様



杭径: ϕ	取組厚: t (mm)	D1(mm)	D2(mm)	H(mm)	r(mm)	W(kg)
300	12	301	34.5	201	2.0	1.8
350	12	351	39.5	201	2.0	2.3
400	12	401	44.5	201	2.0	2.7
450	12	451	49.5	201	2.0	3.2
500	12	501	54.5	201	2.0	3.8
600	16	601	64.5	201	2.0	7.2
700	16	701	74.5	201	2.0	9.9
800	20	801	84.5	201	2.0	13.8
900	20	901	94.5	201	2.0	17.4
1000	23	1001	104.5	201	2.0	23.9
1100	32	1101	114.5	201	2.0	38.6
1200	32	1201	124.5	201	2.0	44.3

- ※FTキャップの品質管理は製作工場で行われるため、施工時には下記の確認を行う。
- ・FTキャップに「FTP」の刻印があること。
- ・FTキャップに変形や損傷がないこと。

■杭頭部詳細図



FTキャップを設置する際は、杭周囲の砕石等のレベルが周辺よりも高くなっていることを確認する。

※図中の有効長は、ボルトヘッドの首下間の距離を表し、アンカー頭部の全長とは異なる。*2

製 造 日		製 造 場 所		製 造 機 種	
製造申請日	製造日	製造申請日	製造日	製造機種	製造機種
決定日	決定日	決定日	決定日	決定日	決定日
検査日	検査日	検査日	検査日	検査日	検査日
竣工日	竣工日	竣工日	竣工日	竣工日	竣工日
F.T.Pile構造 既製コンクリート杭		F.T.Pile構造 既製コンクリート杭		F.T.Pile構造 既製コンクリート杭	
2021.07		2021.07		2021.07	
F.T.Pile構造 既製コンクリート杭		F.T.Pile構造 既製コンクリート杭		F.T.Pile構造 既製コンクリート杭	
5-106		5-106		5-106	